

EUとドイツにおける 持続可能な農業を展望する政策と法

日時：2022年9月7日(水)

10時 - 13時

会場：龍谷大学深草学舎

和顔館4F会議室3

使用言語：日本語 / ドイツ語

10:00 - 10:05 開催挨拶 村澤真保呂 教授(龍谷大学里山学研究センターセンター長)

10:05 - 10:15 企画趣旨説明 糊澤能生 教授(早稲田大学・研究代表者)

10:15 - 11:15 「EUにおける「農場から食卓」戦略と

ドイツのエコロジー農業の将来戦略」

報告者 Cara von Nolting 研究員 / José Martinez 教授・所長
(ゲッチンゲン大学農業法研究所)

11:15 - 12:15 「家族経営の維持との緊張関係における農業の工業化」

報告者 Friederike Heise 研究員 / Jonas Lohstroh 研究員
(ゲッチンゲン大学農業法研究所)

12:15 - 13:00 質疑応答

※本研究会はどなたでも参加いただけますが、事前登録が必要となります

近年、持続可能な食料システムの構築を目指す食料・農業政策が世界的に大きな進展を見せています。ドイツでは有機農業を全農地の20%に拡大するとの目標を掲げる「未来戦略 有機農業」が2017年に、EUでも有機農業を全農地の25%に拡大するとの目標を掲げる Farm to Fork 戦略が2020年に公表されています。こうした動向を受けて日本の農水省も2021年に突如「みどりの食料システム戦略」を公表し、2050年までに農地の25%、1万haを有機栽培農地にするという目標を掲げました。こうした戦略は、経営規模の拡大による生産性の向上をめざす従来型の農業政策に対するオールタナティブとなりうるのでしょうか。生産機能だけでなく多面的な機能の発揮、自然の循環機能という視点から農林業を捉え、そのような農林業の持続的な展開を担保する農林地維持管理法制を確立するという、両国に共通の課題をめぐって議論します。

申し込みフォーム：<https://forms.office.com/r/qi3yCzH4qf>

※申し込みの締め切りは2022年9月6日15:00まで

※新型コロナウイルスの状況次第ではオンラインでの開催になる可能性があります
その場合は、ご登録いただいたメールアドレスへ連絡をいたします



主催：龍谷大学里山学研究センター (問い合わせ先 E-mail: satoyamagaku@ad.ryukoku.ac.jp)
文科省科学研究費・基盤研究B「農地の法的社会的管理システムの比較研究」(代表者・糊澤能生)